

白樺の森

札幌市清田区平岡2条5丁目4番10号 TEL: 883-3761 FAX: 883-9437

<http://www.hiraoka-j.sapporo-c.ed.jp/>

札幌市立平岡中学校
学校だより

令和6年3月15日
第6号

第39回 卒業証書授与式

式辞

学校長 高橋 正幸

校舎の周りの雪も解け始め、確実に春の訪れを感じる季節となったこの佳き日に、PTA会長 川尻和希様、小学校の校長先生を始め、日頃からお世話になっております地域や関係機関の皆様、学校評議員・PTA役員の皆様のご臨席、並びに、ご家族の皆様のご出席を賜り、ここに、節目となる第39回卒業証書授与式を盛大に挙げてまいりますことを、心より厚くお礼申し上げます。

ご家族の皆様におかれましては、お子様が誕生した日から、義務教育の卒業である本日を迎えるまで、毎日、健やかな成長を願い、心温かく支えてくださったことと思います。本日のお子様のご卒業は、たいへん感慨深いものがあると感じ、心からお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

さて、190名の卒業生の皆さん、改めて、卒業おめでとうございます。今日は、皆さんが、九か年の義務教育を終え、新たな旅立ちの時を迎える日でもあります。心交わした友だちや先生方に別れを告げ、通い慣れた校舎を後に、自分自身が選んだ、新たな道への第一歩を踏み出すこととなります。

私は、この校舎で皆さんと二年間という短い間でしたが、その時間を共有し、そして、皆さんの成長を感じてきました。朝の登校時の玄関での挨拶に始まり、放課後の下校までの日常の学校生活や、修学旅行や生徒総会、中体連壮行会、陸上競技大会、全校イベント平岡メモリーズ、合唱コンクール、つい先日行われた卒業セレモニーなどの学校行事や生徒会活動、また、部活動を通して、3年生としての立派な姿を後輩に見せ、素晴らしい財産を残してくれました。学校生活のいろいろな場面で、先生方のたくさんの熱い想いや言葉を胸に刻みながら、皆さんは、精一杯期待に応えてくれました。

さて、少し話は変わりますが、家庭などで利用されている照明（あかり）の白熱電球は、現在、LED電球へと変わりつつありますが、この白熱電球を発明したトーマス・アルバ・エジソンは、何度も何度も失敗を繰り返しながら、白熱電球の発明にこぎつけたと言われています。そのエジソンの言葉の中に「私は今までに一度も失敗したことがない。電球が光らないという発見を今までに、20,000回ただけだ。」という名言があります。この言葉の受け止め方は、人それぞれあるかと思いますが、「失敗は失敗なのではなく、成功に向けての次のステップである」という意味が込められているのだと私は思います。

これから皆さんが歩んでいく道は、決して平坦なものではないかもしれませんが、しかし、その道をゆっくりであっても一步一步、歩んでいくことの先に、新しい道が拓かれていきます。

皆さんはこれからも生きていく上で、決して一人ではなく、周りの友だちや家族など、必ず周りに応援してくれる人や支えてくれる人がいることを忘れないでください。今日の卒業を機に、自分の意思をしっかりとって、これからの新しいスタートを切ってください。私も遠くから応援しています。

在校生の皆さん、3年生とは今日をもってお別れになります。今、皆さんの目の前にいる卒業生の姿が、皆さんの1年後、2年後の姿となります。学校行事や部活動など、様々な活動を通して3年生の先輩から受け継いだ財産を今度は、皆さんが後輩へしっかりとつないでいてください。

結びになりましたが、保護者の皆様には、これまで本校の教育に温かいご理解とご支援を賜りましたことを、高い席からではありますが、厚くお礼を申し上げます。

また、ご来賓の皆様には、今後とも変わらぬご厚情を賜りますようお願い申し上げます、更には、卒業生の皆さんの夢や希望があふれる前途を祝して式辞といたします。

祝辞

PTA会長 川尻 和希

PTAを代表致しまして、お祝いの言葉を申し上げます。

本日は卒業おめでとうございます。並びに、お子様の晴れの日を迎えられた保護者の皆様にもお祝い申し上げます。また、本日はご多忙の中、多くのご来賓の皆様を始め、地域の皆様方にご臨席を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、中学校生活の3年間、どんな3年間を過ごしたか？友達や家族と楽しく過ごし、時には喧嘩をし、部活動や習い事、先生方にたくさんのことを学んだ勉強。いろいろな景色を見て、いろいろなことを経験し、たくさん学んで、たくさんのお会いがあったと思います。その度楽しくて幸せな日々、辛くて、悔しく、苦しんだ日々、色々な日々があったかと思います。それでも、毎日少しずつ、ゆっくりでも、昨日の自分を乗り越え成長してきたはずです。3年間、その小さな成長を繰り返して、皆さんは今、3年前の自分とは比べ物にならないほど大きな成長をしました。今のたくましいその姿、とっても素敵です。卒業し、これから新たなステージに行けば、人間関係や勉強と数え上げればキリがない程、不安なことはたくさんあると思います。今まで見たこともない大きな壁にぶち当たることもあるでしょう。もし、そんな乗り越えられないような大きな困難があったとき、周りを見てください。手を差し伸べてくれる人達が必ずいます。一人じゃない。手を取り合えば、乗り越えられない壁はないと私は思っています。どんなに高い壁が現れても、どんなに険しい道を進まなきゃ行けなくても、早くでも、ゆっくりでも進み続けていれば、素敵な景色が待っているはずですよ。困っている人がいたら優しく手を差し伸べてあげられるような人になってくれると嬉しいですよ。皆様の今後の活躍を楽しみにしております。

保護者の皆様、改めて、本日はお子様のご卒業、誠におめでとうございます。また、3年間のPTAのご理解とご協力を賜りましたことにあらためて、お礼申し上げます。

最後になりましたが、校長先生をはじめ先生方、子供達を愛情深くご指導ください誠にありがとうございました。3年間でここまで成長できたのも、先生方のご指導の賜物だと感謝しております。子供達に優しく、時に厳しくご指導いただき誠にありがとうございました。

卒業生みなさんの輝ける素敵な未来とご来場の皆様のご多幸を祈念致しましてお祝いの言葉とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

送る言葉

在校生代表 2年5組 渡辺萌々夏

肌を震わす冷たい風もいつしか和らぎ、暖かな春が近づいて参りました。この晴れやかな日に平岡中学校を旅立たれる3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

先輩方は私たちが入学した2年前から、私たちの手本として導いて下さいました。期待と不安が入り混じった私たちを安心させて下さったのは、先輩方の心強い存在でした。それと同時に感じる温かな眼差しは、緊張でこわばっていた私たちの心身を、共に優しく包み込んで下さるようでした。

長いようで短く感じられたこの2年間は、先輩方から学んだことが数多くありました。中でも、先輩方の日々合唱に取り組む姿勢や、団結力の強さを合唱コンクールから学びました。合唱練習期間に校内に響き渡る歌声に、よく心が癒されていきました。スローガンである「秋桜」の花言葉のように調和のとれた歌声は、順位関係なく素晴らしい合唱でした。先輩方の歌声から合唱には想いを届ける不思議な力があると知りました。

委員会や部活動では、率先して後輩を温かく、時には厳しく接してくれました。そんな3年生の先輩方は私たち1・2年生にとって、憧れで頼もしい存在でした。

コロナ渦だった2年前、たくさんの活動に制限がかかり、悔しさややるせなさを感じました。またマスクによって表情が隠され、気持ちを相手に伝えづらくなっていました。しかし、今年は例年通りの活動ができ、日常生活も以前と比べると、制限が減りました。今では、多くの人の朗らかな笑顔が学校内全体を包み込んでいるようにも感じられます。コロナウイルスという大きな壁を乗り越えた先輩方はまるで、大空で自由に羽を広げている鳥のように、輝かしい存在に、私には見えませんでした。

私たち在校生が贈る合唱曲「空高く」。「いつか必ず かなう夢もあるから あきらめないで どんなつらいときも」。私は、この歌詞がコロナ渦の学校生活を過ごした3年生を表したように思えました。どんなに辛いことがあっても、努力は必ず報われる。先輩方は私たちにそう教えてくれました。次は私たちが、先輩方が残した本校の伝統を受け継ぎ、日々精進してゆくことを誓います。私たちは皆さんの後輩として、この学び舎で共に生活できたことを、心から誇りに思います。

今日まで本当にありがとうございました。

最後になりましたが、卒業生の皆さんのご健康と、益々のご活躍を祈念して、在校生代表の送辞とさせていただきます。



お別れの言葉

卒業生代表 3年1組 本間 彩花

うらうらと照れる光も差し込み、春の訪れを感じる季節となりました。今日、私達3年生190名は平岡中学校を卒業します。お忙しい中、ご出席頂きましたご来賓並びに、保護者の皆さま、教職員の皆さま、本日は私達のために素晴らしい式を催していただき、誠にありがとうございます。また、先ほどより心温まるお言葉をいただきましたことに、心よりお礼申し上げます。

今一度、これまでの学校生活を振り返ってみると、数々の思い出があふれ出てきます。私達の中学校生活は、コロナウイルスにより制限のある入学式から始まりました。新生活へのワクワクと、不安が入りまじった気持ちになったことを覚えています。入学してから数ヶ月、私は慣れない環境に戸惑っていました。学校へ行くのが辛く、休んでしまう日もありました。しかし、そんなときに支えとなったのは、仲間や先生方、家族の存在でした。

在校生のみなさんは、部活動や委員会、生徒会活動、個々の目標など、それぞれに頑張っていることがあると思います。壁にぶつかったときは、自分の周りに目を向けると、手をさしのべてくれる人、そっと背中を押してくれる存在に気付くはずで。慣れないことにも恐れず、一步一步前進していきましょう。

修学旅行は、3年間の中で一番の思い出となった人も多いのではないのでしょうか。バスから東京の夜景を見て歓声を上げ、「田舎者やん」と笑い合ったこと。クラス全員で笑いながら、もんじゃ焼きを食べたこと。アクシデントが起こっても、良い方向へと持っていける学年の雰囲気。この仲間だからこそ、得られるものがたくさんあったと思います。また、私たちがここまで成長することができたのは、先生方の支えがあってです。私達一人一人に寄り添ってくださった藤林先生、いつも優しく声をかけてくださった根山先生、一つ先まで考え、導いてくださった福本先生、細かいところまで気づかいをしてくださった赤平先生、困ったときにはいつもの確かなアドバイスをくださった石黒先生。厳しさの中に、たくさんの愛情を注いでくれた佐々木大樹先生。その他にも、たくさんの先生に支えられて、楽しい学校生活を送ることができました。いつでも私たちのことを考えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

4月から、私達はそれぞれの道へと進んでいきます。その道中では、新しい人との出会いや、新しい経験が待っていると思います。辛いことや苦しいことがあったとき、隣に仲間がいなくてもいいかもしれません。しかし、中学校で過ごした時間は、一生私達の味方です。辛い時はこの3年間を思い出し、それぞれの道を力強く歩んでいきます。

最後になりますが、本日もご出席頂きました全ての方のご健康とご多幸、そして平岡中学校の益々のご発展とご活躍を心から祈念し、お別れの言葉とさせていただきます。